

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 4 月 30 日現在

機関番号：25501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23720414

研究課題名(和文)成熟産業地域におけるイノベーション創出による地域再生：進化経済地理学の視点から

研究課題名(英文)Regional revitalization by the innovation creation in the mature industrial regions  
: From the viewpoint of evolutionary economic geography

研究代表者

外护保 大介(SOTOHEBO, Daisuke)

下関市立大学・経済学部・准教授

研究者番号：70581669

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円、(間接経費) 0円

研究成果の概要(和文)：今日、先進諸国では、成熟産業地域における地域再生として、産学官連携によるイノベーション創出が注目されている。本研究の目的は、進化経済地理学の視点から、成熟産業地域における、イノベーション創出による地域再生メカニズムを解明することである。本研究では、以下の内容を実施した。

第1に、方法論的枠組構築のために、理論的研究として、進化経済地理学の主要業績のレビューを行い、進化経済地理学の議論動向と研究課題を抽出した。

第2に、国内外の成熟した産業地域でフィールドワーク調査を実施し、地域再生の実例を把握することに努めた。

研究成果の概要(英文)：In advanced nations today, the innovation creation by industry-university-government collaboration attracts attention as regional revitalization in the mature industrial regions. The purpose of this research is to solve the regional revitalization mechanism by innovation creation in the mature industrial regions from the viewpoint of evolutionary economic geography.

Firstly, for methodical framework construction, as theoretical research, the main achievements of evolutionary economic geography are reviewed and the argument trend and research task of evolutionary economic geography are extracted to it.

Secondly, fieldwork investigation is conducted and it endeavored grasping the example of the regional revitalization in the mature industrial regions.

研究分野：人文地理学

科研費の分科・細目：経済・交通地理学

キーワード：産学連携 経路依存性 イノベーション 進化経済学 経済地理学 進化経済地理学 地域イノベーションシステム

## 1. 研究開始当初の背景

今日、経済のグローバル化と知識経済化はますます進展し、イノベーション・知識創造がより重要となっている。BRICs等の新興国では目覚ましい成長が見られ、新たな産業地域はその牽引役となっている。一方で、先進国では、多くの産業地域が成熟化しており、その地域再生に対して様々な取り組みがなされている。

これまで、進化経済地理学を理論的基盤として、日本国内の企業城下町を事例とした産業地域転換のメカニズムの実態分析に取り組んできた。進化経済地理学とは、経済地理学に進化経済学の概念や分析視角を導入したものであり、2000年代に入り、欧米の経済地理学において活発な議論がなされている。進化経済地理学は、「経路依存性」や「ロックイン」などの概念を導入し、長い時間をかけて蓄積・形成されてきた、地域における技術や主体間関係などの特性について論じている。イノベーションの創出は、単なる生産機械設備の投入とは異なり、地域的な文脈のなかで、徐々に効果を及ぼすことが多く、進化経済地理学の議論に適合的である。ただし、進化経済地理学は緒に就いたばかりであり、議論を発展させていくためには、実証研究に反映可能な概念・理論の整備が急務となっている。

成熟産業地域において産学官連携によるイノベーション創出を目指す取組は、新たな産業地域のイノベーション創出とは異なり、困難が予想される。企業間の取引関係は固定化し、企業家精神や革新性が抑えられていることは少なくない。そのような経路依存的に構築されてきたネガティブなロックインを解放し、ポジティブなロックインを戦略的に構築してイノベーション創出という新たな経路を創出する段階に到達するにはどのような要因が重要なのか、企業・大学・公設試・自治体がイノベーション創出において留意すべき事柄や果たすべき役割は何か、地域再生のメカニズムはどのようなものなのか、いまだ未解明の点が数多く残されている。

進化経済地理学は、産業地域の形成・発展・転換・衰退の諸段階から構成される進化モデルの構築を目指している。成熟産業地域の再生メカニズムの解明という本研究を通じて、進化経済地理学が目指しているモデル構築への足掛かりをつかみたい。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、進化経済地理学の視点から、成熟産業地域における、イノベーション創出による地域再生メカニズムを解明することである。

具体的な研究項目として、第1に、方法論的枠組構築のために、進化経済地理学の理論的成果とその課題を明らかにする。第2に、国内外の成熟産業地域におけるフィールドワーク研究を実施し、実態把握と理論的成果

との整合性を図る。

## 3. 研究の方法

進化経済地理学は、産業地域の形成・発展・転換・衰退の諸段階から構成される進化過程モデルの構築を目指している。進化経済地理学が目指しているモデル構築への足掛かりをつかむために、本研究では、理論研究とフィールドワーク研究を並行して行い、それぞれの成果が有機的に結合するように配慮する。

## 4. 研究成果

本研究により得られた研究成果は、以下のとおりである。

### (1)理論研究

方法論的枠組構築のために、理論研究として、進化経済地理学の主要業績のレビューを行い、進化経済地理学の議論動向と研究課題を抽出した。これら欧米の研究成果をレビューするだけでなく、進化論的なアイデアを含んだ国内外の既存研究について再検討し、進化経済地理学の動向を批判的に検討した。理論研究の成果は、学術誌「地理学評論」85巻1号に掲載された(雑誌論文)。この論文は、以下のようにまとめられる。この論文の目的は、進化経済地理学の主要業績を読み解くことを通じて、進化経済地理学の発展経路を探索し、今後の可能性を検討することである。進化経済学は、ルーティンを鍵概念として議論を展開しており、議論の特徴の1つである方法論的な多様性や開放性は、進化経済地理学に受け継がれている。重層的空間スケールにおける経済システムの進化を議論する進化経済地理学のうち、この論文では、経路依存性と一般ダーウィニズムのアプローチの議論動向を取り扱った。前者のアプローチでは、地域の発展経路を描く手法が開発される一方で、経路依存性と均衡・非均衡との関係が再考されている。後者のアプローチでは、生物学の概念が導入され、特に「関連した多様性」は関心を呼んでいる。今後の可能性として、理論と実証をつなぐ中間概念の整備、有意義な事例研究の蓄積と既存研究の再評価、重層的な空間スケールにおける多様な主体の進化を取り扱うことを指摘した。

前述の理論研究の成果をもとに、進化経済地理学と現代工業の立地調整との関係を考察する発表を行うとともに、論考をまとめた(学会発表、図書)。

また、理論研究をより前進させて、『地域経済学研究』第27号の企画特集「地域政策論の最前線」の1つとして、「進化経済地理学の動向と地域政策論」の論文を執筆し、欧米における進化経済地理学の動向と地域政策論との関係を論じた(雑誌論文)。具体的には、進化経済地理学と関連諸理論との関係性を整理したうえで、「経路依存性と地域政策論との関係」、「関連した多様性・レジリエ

「新技術と地域政策論との関係」を考察した(図1)．前者の「経路依存性と地域政策論との関係」では、規範的な経路依存モデルと複合的な経路依存モデルとの峻別が指摘されていることを示した．後者の「関連した多様性・レジリエンスと地域政策論との関係」では、関連した多様性に関する研究が増加してきているものの、地域イノベーションシステム論を刷新するものとは言いがたいことを指摘するとともに、レジリエンスの概念は重層的な空間スケールの中で地域経済の脆弱性を克服する地域政策を考えるに当たって示唆を与えるのではないかと考察した．

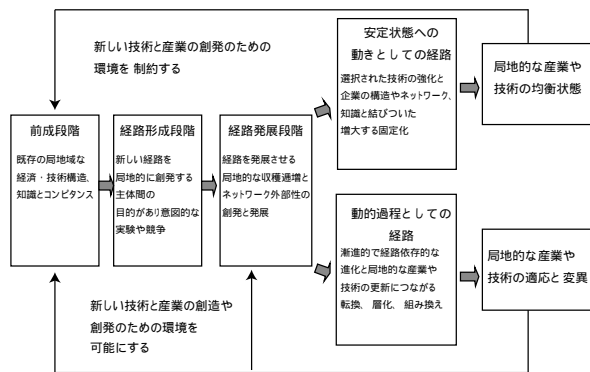


図1 局地的な産業進化の新たな経路依存性モデル

原図：Martin, R. (2010) “Roepke lecture in economic geography - Rethinking regional path dependence: beyond lock-in to evolution”, *Economic Geography* 86: 1–27.

## (2) フィールドワーク研究

### 国内研究

成熟した産業地域における産学官連携によるイノベーション創出に関する研究を実施した．室蘭工業大学等との産学連携を進めている北海道室蘭市や、名古屋工業大学等との産学連携を進めている岐阜県東濃地域において調査を行った．イノベーション創出に対する産業地域の企業、大学、地方自治体等の行動とその背景に焦点を当てて、インタビュー調査・文献調査・データ分析を行った．本研究の成果は、学会発表にて報告した．

### 海外研究

成熟した産業地域に関して、日本の状況と海外の状況とを比較検討するために、ヨーロッパ地域を対象としてフィールドワーク調査を実施した．ドイツ、イギリス、イタリア、フランス、ベルギー、オランダの工業地域、炭鉱地域を訪問し、イノベーション創出に対する産業地域の企業、大学、地方自治体等の行動とその背景に焦点を当てて、インタビュー調査・文献調査・データ分析を行った．地域の産業集積が築いてきた経路依存性の活用如何が、地域経済の再生にとって重要であることが示唆された．

## (3) その他

本研究に関連して、地域イノベーションシステム構築や産学連携のあり方について、経営戦略・技術経営、社会学・心理学や産学連携の現場など複数の立場から考察する学会発表をオーガナイズドセッション形式により実施する機会があり、経済地理学の観点からセッションの一員として参加することができた(学会発表)．

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

### 〔雑誌論文〕(計3件)

外 柵 保 大 介(2012) 進化経済地理学の発展経路と可能性. *地理学評論* 85: 40-57. 査読あり

外 柵 保 大 介(2012) 企業城下町中核企業の事業再構築と地方自治体・下請企業の対応 神奈川県南足柄市を事例として. *経済地理学年報* 58: 1-16. 査読あり

外 柵 保 大 介(2014) 進化経済地理学の動向と地域政策論. *地域経済学研究* 27: 17-28. 査読なし

### 〔学会発表〕(計5件)

外 柵 保 大 介(2011) 産業集積地域における産学官連携の進展と地方自治体・大学の役割 新潟県燕・三条地域、長岡地域を事例として. 日本地理学会 2011 年秋季学術大会. 2011 年 9 月 23 日. 於・大分大学

外 柵 保 大 介(2011) 工業都市北九州市における地域イノベーション・システムの構築と産学官の取組. 研究・技術計画学会 第 26 回年次学術大会. 2011 年 10 月 16 日. 於・山口大学

外 柵 保 大 介(2012) 産業集積地域における地域イノベーション. 日本地理学会 2012 年春季学術大会. 2012 年 3 月 29 日. 於・首都大学東京

外 柵 保 大 介(2012) 地理学からみた産学連携. 産学連携学会第 10 回大会. 2012 年 6 月 15 日. 於・高知会館

外 柵 保 大 介(2012) 産業集積地域における大学の経路依存性と産学連携の特質. 経済地理学会西南支部例会. 2012 年 12 月 15 日. 於・北九州市立大学

### 〔図書〕(計2件)

外 柵 保 大 介(2013) 現代工業の立地調整と進化経済地理学. 松原宏編『現代の立地論』96-105. 古今書院.(分担執筆)

外 柵 保 大 介(2013) 企業城下町における地域イノベーション—山口県宇部市の事例. 松原宏編『日本のクラスター政策と地域イノベーション』173-194. 東京大学出版会.(分担執筆)

### 〔産業財産権〕

なし

〔その他〕  
なし

6．研究組織

(1)研究代表者

外 梶 保 大 介 ( SOTOHEBO, Daisuke )

下 関 市 立 大 学 ・ 経 済 学 部 ・ 准 教 授

研 究 者 番 号 : 70581669